

知多半島における地域住民の健康とソーシャル・キャピタル(2)

: 知多市岡田地区「健康なまちづくり」の事例から

100039

Social capital and people's health in Chita Peninsula, Aichi Prefecture (2)

: A case study of Okada district in Chita City

村田 陽平 (武庫川女子大学) *, 埴淵 知哉, 近藤 克則 (日本福祉大学)

Yohei MURATA (Mukogawa Women's Univ), Tomoya HANIBUCHI, Katsunori KONDO (Nihon Fukushi Univ.)

キーワード : 健康の地理学, ソーシャル・キャピタル, 健康なまちづくり, 知多半島, 愛知県

Key words : health geography, social capital, city planning for health, Chita Peninsula, Aichi Prefecture

知多半島における地域住民の健康とソーシャル・キャピタルに関する基礎調査の二つ目の事例として、知多市岡田地区で展開されている「健康なまちづくり」を取り上げる。1点目の報告が、「社縁」という戦後の代表的な関係性が果たした地域の変遷を説明したのに対して、2点目となる本報告では、それにかわる新たな地域の関係性を探っていくために、近年「健康なまちづくり」の取り組みを推進し、大きな注目を集めている知多市岡田地区の実態について報告する。

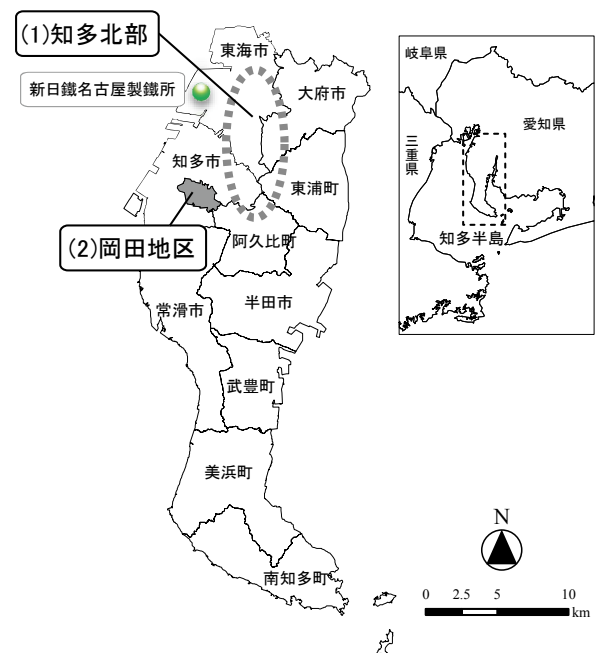
知多市は、愛知県知多半島の西側に位置し、高度成長期に伊勢湾の臨海部を埋め立て、企業を誘致することで発展してきた人口 83,968 人 (2007 年 6 月) の産業都市である。知多市の内陸部に位置する岡田地区は、知多木綿の生産地として栄えた 400 年の歴史をもつ古い集落である。その開村は、江戸時代初期 1606 年 (慶長 11 年) 11 月 13 日とされ、2006 年 (平成 18 年) には岡田村誕生 400 年記念事業が行われた。なお、現在の岡田地区の人口は 7,584 人、世帯数は 2,609 世帯 (2007 年 6 月) で漸増傾向にある。

岡田地区では、2001 年 1 月に「岡田コミュニティ：健康なまちづくり部会」が誕生して以来、積極的に「健康なまちづくり」運動を展開することで、全国的に有名なモデル地区として認められるに至っている。この「健康なまちづくり」部会の発足経緯は、当時の愛知県知多保健所の保健師が、今後の健康推進活動における地域住民の主体性を重視し、地域住民にネットワーク形成を呼びかけたことにははじまる。健康な地域づくり支援事業のモデル地区 (知多保健所) の指定を受け、また積極的な地域住民主導のもと継続的な活動が展開された。2007 年 1 月には「全国健康なまちづくりサミット in 岡田」が知多市岡田公民館に

て開催され、福島県大越町「白山区すこやかな地域づくり推進委員会」、山形県白鷹町「元気ニコニコ推進会議」の参加があったように、全国レベルの交流を行うほどに至っている。

本発表では岡田地区の現地調査を通じて、健康なまちづくりの概要や背景を詳細に説明し、この活動を可能にしたのがどのような地域の関係性であったのかを示唆する。そのうえで、今後の地域住民の健康と地域づくりにおいてソーシャル・キャピタルという概念が果たすべき役割や可能性とは何か、また地域のソーシャル・キャピタルを構成するよりよい関係性とは具体的にどのようなものかを探っていく足がかりとしたい。

< 研究対象地域 >



付記) 本研究は日本福祉大学 21 世紀 COE プログラム研究の助成を受け実施された。